

## 第6学年 学級活動(2)指導案

指導者 T1

栄養教諭 T2

1. 日時・場所 令和5年7月

2. 題材 食習慣を見直そう

エ 食育の視点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

3. 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸問題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼しあってよりよい人間関係を形成しようとしている。

4. 題材について

(1) 児童の実態

・学級目標

本学級の児童は、学校行事や児童会活動に対して前向きな姿勢をもち、積極的に参加する児童が多い。昨年度行われた式典では、6年生を支える立場である5年生としての役割を学年で意識し、式典をよりよくするために一人一人がめあてをもって取り組み、大きな成功を収めた。

普段の様子として、グループ活動の場面では、積極的に話し合う様子が見られるが、全体での話し合いになると尻込みしてしまう児童も少なくない。

学級目標には、どんなクラスを目指していきたいか話し合ったとき多くの児童からでてきた「楽しいクラス」「最高学年としての役割」というキーワードから学級目標を達成するために「助け合い」「切り替え」「協力」を大切にしたいという児童の思いがつまっている。

6月に実践した学級活動(2)「命を守る安全な生活」では、校内の不審者対応訓練を受け、自分の登下校時の安全や放課後の安全な過ごし方について見つめ直し、安全な生活を送るためのめあてを決めた。全国の小学生が犯罪に巻き込まれる件数から、決して他人事ではないことを知り、地域の中で犯罪に巻き込まれる可能性のある場所や時間帯を確かめることで自分のめあてを決めていった。

実践の振り返りでは、「通学路にあるカーブミラーを意識的に確認しながら下校することができた」や「家に帰ってドアを開けると大きな声でただいまを言うことができた」など、それぞれが自分にあつためあてを立て実践することができていた。また、「地域の中の子ども110番の家が思っていたより多く、たくさんの人に見守られていることに気づいた」と、安全な生活を意識的に行うことで新しい気づきがあった児童もいた。

## (2) 題材設定の理由

一般的に「食習慣」とは、人が意識的かつ反射的に食べることとされているが、本実践では、「食」というテーマで【食品ロス】【健康のための食】【コミュニケーションツールとしての食】という3つの視点を設け、それらを総称し「食習慣」と捉えた。児童が自分自身の「食」を考える切り口として提示していくようにする。

今年度、児童の関心などから総合的な学習の時間で「SDGs」を取り扱っている。学習の入り口として、まず、SDGsについて知ることを目的とし、17の目標についてグループごとに調べ学習を行った。目標が立てられるということは、課題があるという視点で各目標について身近な話題や世界のSDGsに対する取組の現状を調べたことで、課題意識をもつことができた。しかし、貧困や飢餓など自分自身の課題としては現実味が薄いのは事実である。

児童にとっての身近な話題としては、給食委員会で給食の残食を減らすという目標を立て「食べたら元気ビンゴ」を全校で実施し、その成果を実感している。残食を減らすことがSDGsの多くの目標に関連してくることを糸口にSDGsへの興味や関心を広げ、自分自身ができることに気付き、自らが行動することの価値を実感できるようにしていきたい。

そのきっかけの一つとして肉の代替食として話題になっている「大豆ミート」を取り扱っていく。「大豆ミート＝環境」に限らず、大豆ミートの普及によって様々なSDGsの目標の達成に近づいていく事を知り、「食」というテーマで自分にできることを広く捉え、めあてを立てるうえでの視点になるようにしていきたい。

## 5. 活動の実際

### (1) 事前の指導

活動の場	・児童の活動	○指導上の留意点	資料	☆目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉
家庭	・ある1日の家庭で自分が出した残食について調べる。	○1週間家庭での残食の量や場面、理由を調べてくるように助言する。結果はフォームで集約し、授業で扱うときには、匿名で行うようにする。	アンケート	☆アンケートに答えることで、自身の「食」との関わりについて、学習への見通しをもとうとしている。【主体的態度】アンケート

(2) 本時の展開

①ねらい

「食」というテーマをSDGsの視点で考えることで、自己の食習慣を見直し、自己の食習慣をよりよいものにしていくために話し合って自分のめあてをもち、実践できるようにする。

②展開

	児童の活動	○指導上の留意点	・資料	☆めざす児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入	【つかむ】 1 事前のアンケートの結果や残食量の資料から気付いたことを話し合う。	T2 残食＝食品ロスにつながることを確かめる。 T2 国民1人が1日あたり茶碗1杯分(132g)、1年間で48kgの食品ロスを出していることを伝える。	・アンケート結果 〈掲示資料〉 ※家庭での残食に関するアンケートを事前にとっておく。 ・給食の残食量の写真〈掲示資料〉	
展開	2 給食・家庭での残食、普段の食事の様子から「食」に関するキーワード食品ロス・健康・コミュニケーションの3つの視点を 知る。	T1 給食の残食と家庭からでる残食の原因のちがいについて気付くことができるようにする。 【給食】・好き嫌い・個々の適 【家庭】・好き嫌い・買いすぎ ・外食時の食べ残し T1 家庭での食事の様子から「健康のための食」「コミュニケーションツールとしての食」という視点に気付くことができるようにする。		
SDGsの視点で、自分の「食」について考え、めあてをきめよう！！				
	【さぐる】 3 「米」を例に生産・運送・調理と自分たち消費者が口に入れるまでにたくさんの人が関わっていることを確かめ、SDGsとの関連に気付く	T1 5年生の社会科の学習を思い出しながら、生産者の人たちがどんな事を大切にしているのかを確かめ、SDGsとの関連に気付く事ができるようにする。	・生産者の声の掲示資料。 ・生産者、運送業者、給食調理員へのインタビューをまとめた〈動画・掲示資料〉SDGsカード	

終 末	<p>4 大豆ミートについて栄養教諭の話聞く</p> <p>【見つける】</p> <p>5 SDGsの視点でこれからの「食」について考え、自分たちができることについて話し合う。</p> <p>【決める】</p> <p>6 これからの「食」との関わりに向けて自分のめあてをカードに記入する。</p>	<p>T2 大豆ミートを活用することによるよさを伝える。</p> <p>T1 食品ロス、健康、コミュニケーションという3つのキーワードから考えを広げ、自分たちにできる具体的な内容の話になるように助言する。</p> <p>T1 「食」というテーマで自分たちにできる課題解決の方法から、それを実践することによってどんな目標の達成に繋がっていくのかを話し合うように伝える。</p> <p>T1 具体的に自分が意識をもって取り組んでいけるよう、児童の実態に合わせためあてを立てるように助言する。</p>	<p>・大豆ミートについて〈掲示資料〉〈スライド〉</p>	<p>☆話し合ったことを生かして、自分が実践することを意思決定している。【思考・判断・表現】〈観察・学習カード〉</p>
--------	--	---	-------------------------------	--

### ③板書計画

#### (3)事後の活動

活動の場	・児童の活動	○指導上の留意点	☆目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
7月 日～ 7月 日	・意思決定しためあてを意識して実践する。	○児童によって給食の場面や家庭での食事の場面をめあてにすることになるので、適宜声をかけ、毎日意識的に取り組むことができるようにする。	☆意思決定したことを実践している。 【思考・判断・表現】 〈GIGA端末〉
7月 日 モジュールタイム	・実践について振り返る。	○振り返りを行う機会を設定し、継続した実践になるようにする。	☆実践を振り返り、今後の学校生活や日常生活に生かそうとしている。 【主体的態度】 〈めあてカード〉

#### 6.資料

##### (1)児童の意識を高めるための資料

###### ①大豆ミートについて

①牛や家畜から出るゲップにメタンガスが含まれていて、それが地球温暖化の原因になる。

【13 気候変動に具体的な対策を】

②家畜を育てるには、膨大な飼料(穀物)、水、土地が必要になる。

1kgのステーキを作るためには、15000Lの水、25kgの穀物が必要。大豆の場合はその1/8で済む。

【6:安全な水とトイレを世界中に】 【15:陸の豊かさを守ろう】

③世界規模で人口が増加している(2050年に97億人)中で、肉の需要に供給が追いつかなくなり、多くの人が食糧難(タンパク質供給不足)になると言われている。どこの国でも育てやすい大豆などの豆類を取り入れることで、持続可能な食糧生産ができるようになる。

【1:貧困をなくそう】 【2:飢餓をゼロに】 【10:人や国の不平等をなくそう】

④大豆は栄養価が高く、「畑の肉」とよばれている。肉と同じぐらいたんぱく質がとれ(エネルギーは抑えてある。脂質は豚ひき肉に比べると95%カット)、食物繊維、ビタミン、ミネラルもとれる。健康志向の人たちから特に人気が出てきている。【3:すべての人に健康と福祉を】

⑤宗教上の理由や、アレルギーで肉が食べられない人も、大豆ミートで作られたおかずは食べることができる  
【5:ジェンダー平等を実現しよう】

⑥加工しているので長期保存でき、食品ロスを減らすことができる。【12:つくる責任、使う責任】

大豆ミート1つだけでも、これだけのSDGsの目標と関連している。川崎市全体でSDGsに取り組んでいくことになり、10月に大豆ミートのドライカレーが提供される予定。

##### (2)ねらいを焦点化するための資料



①給食の残食の写真

②事前アンケート

【質問】

・自分自身が出した残食はあるか。(6月30日の夕飯の結果)

・食事をしている場面で楽しい、嬉しいと感じる場面について。

③国民一人当たりの残食量

④生産者、運送業者、給食調理員のインタビュー動画

(3)実践への意欲付けのための資料



〈資料〉給食の残食量の変化

給食委員会の取組み前と取組み後

# SDGsの視点で自分の「食」について考え、めあてを決めよう!

名前「 \_\_\_\_\_ 」

〈自分のめあて〉 何のためにどう食べるのか具体的なめあてをたてましょう。

【何のために】・・・自分のめあてを決めるために選んだ視点に○をつけましょう。

食品ロス      健康のため      コミュニケーション

【どう食べる】・・・どのように(どんな思いをもって)食べるのか、その方法を書きましょう。

食べる!

そうすることで、SDGsの目標(                      )の達成に近づく!

〈実践〉

日付	できた○ もう少し△	振り返り
7/		
7/		
7/		
7/		
7/		
7/		
7/		
7/		

〈学習の振り返り〉

